

	発言者	意見	回答
策定の背景 について			
1	西島委員	＜策定の背景・社会情勢について＞ 「インバウンド観光客の増加」を追加してはいかがか。	外国人旅行者の増加について、「第1章、2.策定の背景、(1)社会情勢」にて記載します。
基本理念 について			
2	浪床委員	＜めざす姿について＞ 「まちをキレイにしたいと思い行動する」の文言は清掃を想定しているのか。イメージが付きづらいため「魅力ある」くらいにしてはいかがか。	「第2章、2.基本理念」のイメージ図を「まちを魅力あるものになりたいと思い行動する」という文言に修正します。
施策Ⅰ 文化芸術に触れる場と機会の創出 について			
3	モーガン委員	施設に入りにくい人もいると思うので、例えば1か月前に路上で披露する等プレイベントとして広報するのはどうか。	今後、本計画に沿った文化芸術施策を推進していく中で、いただいたご意見を踏まえイベント主催者等への働きかけなども含め検討します。
4	山下委員	花畑広場でプレイベント等をもっと活発にしてほしい。 ナイトタイムエコノミー(＝夜間におこなわれる経済活動)をしていくべき時代だと思う。夕暮れ時から、夕涼みがてらコミュニティを求めてまちに出てアートに触れるようなライフスタイルになっていくといい。	花畑広場等の活用については、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅰ 取組1」、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅱ 取組2」に記載します。 また、ナイトタイムエコノミーは「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅱ 取組3」にて記載します。
5	嘉悦委員	＜施策Ⅰ―2―①について＞ イベントの機会を与えられることはあるが、音響がない場合が多い。 それが原因で(特にアマチュアにとっては)「こんなものか」と思われるのが痛手。 ＜施策Ⅰ―3―②について＞ 熊本市のLINEとてもいい。登録者数を増やすことでダイレクトに届きやすくなると思う。経験上、テレビやチラシ等よりも、Instagramやティックトックのインフルエンサーに広報してもらう方が影響大きく、若い世代にも届きやすいと思う。	骨子＜施策Ⅰ―2―①について＞ 今後、本計画に沿った文化芸術施策を推進していく中で、取組等を検討していきます。 骨子＜施策Ⅰ―3―②について＞ 「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅰ 取組3」に記載のとおり、若い世代には、SNSを活用し発信するなど、ターゲットに応じた効果的な広報を実施します。
6	モーガン委員	外国人観光客からしても、観光地で邦楽や書道パフォーマンス、演舞等のアート活動があったら目を引くと思う。	今後、本計画に沿った文化芸術施策を推進していく中で、いただいたご意見を踏まえ事業を検討します。
7	狩野委員	＜施策Ⅰ―1―③について＞ 「こども連れから高齢者」ではなく「こどもからおとな」がいいのでは。 ＜施策Ⅰ―3―③について＞ 美術にかぎらず音楽などいろんな授業があるといい。	骨子「施策Ⅰ―1―③について」 「こども連れから高齢者」という表現を削除しました。 骨子＜施策Ⅰ―3―③について＞ 「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅰ 取組2」に記載のとおり、美術については、現在現代美術館で取組を行っており、今後音楽等の他の科目についても検討していきます。
8	西島委員	障がい児、障がい者との文化を通じた交流も大事なので入れてほしい。	障害者による文化芸術活動の推進に関する法律においても「文化芸術活動を通じた交流の促進」は規定があり、本計画において、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅰ 取組2」にて記載します。
9	喜久山委員	障がい者にパブリックアートを制作してもらうのはどうか。	いただいたご意見を踏まえ、関係課と連携し検討していきます。
10	小堀委員	＜施策Ⅳ―1―④について＞ アーティストインレジデンスの定義は、海外に限らないのでは。	海外に限定した表現を削除します。 本計画においては、姉妹友好都市等の交流事業として考えている事業であり、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅳ 取組2」に含まれます。

	発言者	意見	回答
施策Ⅱ 文化芸術の継承と活用 について			
11	石櫃委員	邦楽コンクールが具体案に出てないので検討してほしい。	邦楽コンクール・子ども邦楽祭については、計画の中の熊本の文化を紹介する「コラム」にて記載します。
12	小堀委員	石櫃委員に同意。こども邦楽コンクールも併せて周知してほしい。	
13	西島委員	文化・歴史をつくってきたのは「人物」。横井小楠や小泉八雲や宮本武蔵等、熊本市は人物に焦点をあてて歴史を語る取組はしてきていない印象。そうした視点も取り入れられたらいい。	「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅱ 取組3」で記載します。
14	浪床委員	市民アンケートで「熊本の文化からイメージするもの」として「歴史」の回答も多いが、伝統文化・文化財ではなく、細川・加藤といった「歴史」を学ぶ・触れる取組があってもいいと思う。	「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅱ 取組3」で記載します。
15	狩野委員	＜施策Ⅱ—2について＞ 一般市民はシビックプライドの意味がわからないと思うので注釈がほしい。	シビックプライドについて注釈をつけます。
16	佐藤委員	＜推進体制について＞ 「市の文化施設の環境整備」について、市の施設を取材する機会があったが、例えば八雲旧居にはパネルが壁に貼ってある・フィルムが畳の上にのってるだけ、ばあちゃん家にあるような蛍光灯があったり…など、文化財の本当の意味での保管・保全として、できていないと思う。現代に合っていないと思う。整備された空間でアート活動の場とするといいかもしれない。	記念館等の歴史的な文化施設について、来館者がVRなどでその当時の体験ができるような取組も必要であると考えており、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅱ 取組3」で記載します。
施策Ⅲ 次代の文化芸術を担うこどもたちの育成 について			
17	嘉悦委員	＜施策Ⅲ—1—②について＞ 学校にクラシック演奏に来た経験あるがリアルじゃない。 学校から出て劇場やライブハウスなどでリアルな現場と音に触れてほしい。 生の演奏を聴いてカッコいいと思うことは、演者の母数を増やすことにもつながると思う。	「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅲ 取組1」で、こどもたちが文化施設等で本物に触れる機会の提供を記載します。
18	西島委員	＜施策Ⅲ—1—②について＞ 「伝統芸能講師」等に限定しない方がいいのでは。	限定しない表現にします。「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅲ 取組1」で記載します。
19	佐藤委員	アーティストは0から1を生み出す人。生み出された1を10や100にする人も必要。そういったファン・サポーターのことも計画に記載があるといいのでは。	こどもの頃から文化芸術に触れる機会をつくることでファンやサポーターを増やすことにつながると考えており、「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅲ」で記載します。
20	西島委員	＜施策Ⅲ—3—②について＞ 高校生のダンスレベルはすごいので、大学に限定しなくてもいいと思う。 ＜施策Ⅲ—3—④について＞ 室内「楽」アカデミーに限定しなくていいと思う。	「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅲ 取組1」で限定しない表現にします。

	発言者	意見	回答
施策Ⅳ 文化芸術を介したつながりの創出と多様な価値の活用 について			
21	浪床委員	＜施策Ⅳ－3－①について＞ 東京藝術大学との連携とありすごいと思うが、地元の大学も入れた方がいいのでは。	東京藝術大学だけでなく、地元の大学との連携についても記載します。
22	佐藤委員	広報・広告に関して、経験上、プロポーザルの仕様書が縛りになって表現の幅が狭まることが多々あるため、現代に合うようにアップデートが必要。	いただいたご意見を参考に、今後仕様書の作成等を検討します。
23	浪床委員	＜施策Ⅳ－1－②、⑥について＞ 「日本人市民」のワードは違和感がある。	「第3章、2. 基本施策、基本施策Ⅳ 取組2」において、「日本人」という表記に改めます。
横断的な施策Ⅱ 文化芸術を支える新たな基盤づくり について			
24	喜久山委員	広い視野でアートマネジメントできる存在、熊本の魅力を外に発信できる存在が必要だと思う。	「第3章、3.横断的な取組、Ⅱ 文化芸術を支える新たな基盤づくり」を検討していく予定としており、その中で検討します。
25	狩野委員	前回の策定委員会でも、つながりをつくる・マネージャー的存在が足りていないという話になった。今回の資料で、つなぐ役割は文化顧問が行うとのことだが、実際に地域の中に入って動くのは、民間の非営利団体やボランティア団体を活用していくのが現実的なのではないか。子ども劇場でも、学校への提案やこども会・自治会に文化芸術を届ける活動を行っているため、実際にそういった活動をしている団体を活用するといい。	「第3章、3.横断的な取組、Ⅱ 文化芸術を支える新たな基盤づくり」を検討していく予定としており、その中で検討します。
その他			
26	浪床委員	たくさん具体案が描いてあり、全部実現できれば良いが、予算措置の問題が心配。	記載の事業は既存のものを含んでいますが、新規事業については推進すべき取組として記載し、実施していきます。
27	モーガン委員	具体案が具体的でないものもあるので、もっと具体的な取組を書いた方がピンとくるし、わくわく感が出ると思う。	計画に事業例として具体的に記載するとともに、よりイメージ等ができるようにコラムで事業等を紹介します。
28	小堀委員	ストリートアートプレックスは、いろんな届出が必要なので、まとめて届出ができるような仕組みができるといい。	ご意見を踏まえて、関係課と連携し検討します。
29	佐藤委員	人気な授業ランキングで、美術は小学校までは人気だが、中学校から下位になるという統計があった。セグメントは細かく区切り、ターゲットを考えた取組をした方がいい。思春期くらいを機に、作るから見る・聴くなど受容する側に変容するのではないかとと思うので、研究するといいのでは。	今後研究すべき課題として検討します。
30	モーガン委員	アーティスト活動にはお金がかかるから、民間企業スポンサーとのマッチングを行政がしてくれたら嬉しい。	アーティストスポット熊本事業ではアーティストと発表の場を登録し発信することでマッチングを行っており、企画会社等から登録アーティストへの出演依頼等、アーティストのビジネスチャンスの創出につながっています。